

週刊 タバコの正体

いったんタバコを吸い始めてニコチン依存症になってしまうと、毎日タバコを吸い続ける生活になってしまいます。そうすると常にタバコを持ち歩くことになり、無くなるたびに買い続けなければなりません。仮に20本入りのタバコ1箱が600円とし毎日買い続けたとすると年間21万円以上が必要です。そんな生活を10年、20年、30年と続けると下図のように費用がかかるのです。言い方を変えれば、タバコを吸い始めなければこれだけの金額が節約できるわけです。

そして、なによりもタバコを吸い続けると自身の健康が損なわれ病気になる可能性は高くなります。病気になると快適な生活を送ることができなくなり、治療が必要になる場合も多くなります。

下のグラフは、その治療費に関する研究を厚生労働省がまとめたものです。それを見ると喫煙者が禁煙すると、禁煙期間が長くなるにつれて、医療費が減っているのがわかります。

つまり、タバコを吸い始めると、多額の購入費用を出費した上に、病気になって医療費も多くかかってしまうわけです。

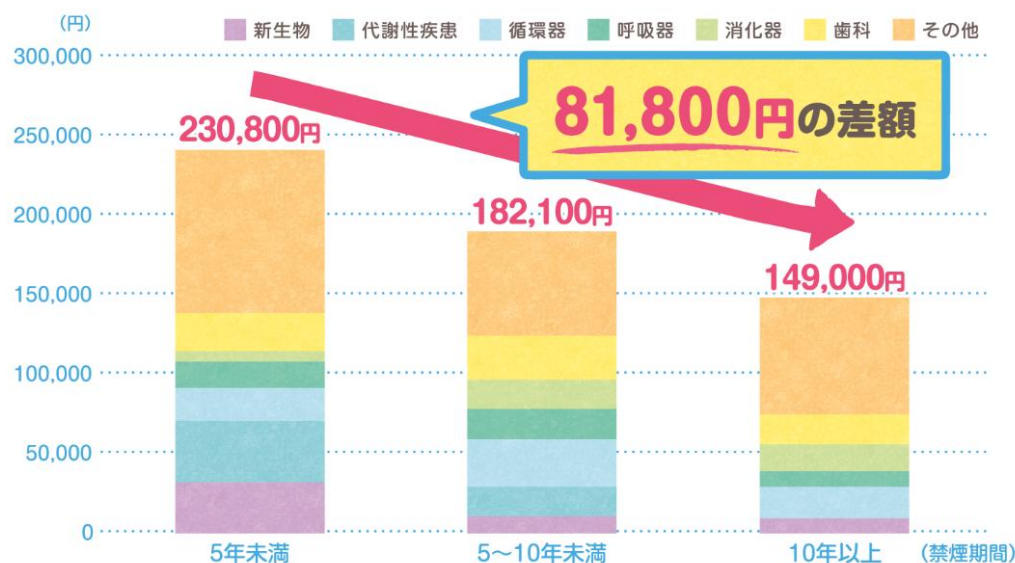
まるで病気になるためにお金を出して、病気になれば治すためのお金も出しているように思いませんか。

「もったいない」ですよ。

産業デザイン科
奥田 恭久



禁煙した人の年間医療費



資料：厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業) 分担研究報告書
職域における効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度に関する研究(平成18年度)

健康保険連合会けんぽれん HP から